



幸せな贈り物

人生の12進法 四柱推命 (運命、運勢)

薬なのか。毒なのか。

その女の人の話はこのようなでした きれいな女性が、長くて黒いおさげ髪を、ほとんど素肌があった肩にほのかな光の中で流れるようにおろして、私の横に少し離れて座ったのだった。

「きれいですね。あ、はい……」彼女はよく聞いていることばだからか、別に関心なく腕だけ続けて動かしていた。「でも、きれいだからといって人生が思いどおり生きていけるのではないでしょうね」意外な返事が、すぐに、そして真剣に返って来た。「そうです。すべて運命です。運命なら仕方ないでしょう」

彼女の人生ストーリーはこうだった。信心深い仏教徒である彼女のお母さんは、お寺で供養して修養していたが、有名な大きい霊媒師の息子と相性が合うということて派手に結婚させられた。彼女のご主人は申し分ない、おだやかな性格で、なんの不自由もなく暮らせる職場もあったという。はじめての息子が三歳か四歳くらいになったとき、職場から帰って来た夫は、急に野獣のように変わって、手が触れるものをたたき壊し、息子は蹴飛ばして、自分はほとんど息さえできないほどに殴られたのだった。その後、暴力は毎日必ず通らなければならない当たり前の日課になったし、もっと驚くことに、死ぬと言って殴ってからは、あざになった傷をなでながら、わあわあ泣いて、また目がひっくりかえると大声を上げるのだった。そのようなことが三年以上続き、くたびれはててしまった。結局、霊媒師である姑の

言うのに「ああ、お前がだめなのだ。私が祈ってみたら、私たちの家系の先祖の霊が、ものすごく大きな刀にびっしりとついて、お前たち二人の間をばっさりばっさり切り刻むのに、私の力でどうやって勝てるだろうか。事態がこのようになったから、お前たち二人は別れるのが私たちの先祖の願いだろう。分かるか」結局、宝のような息子さえ奪われて、追い出されるように離婚されたと言った。なおかつ慰謝料さえ、まともにもらうことができなくて、食べるためには仕方なく、きつい仕事をいやがらずにしてみた健康を壊し、それからは唯一、残った元金である顔売り込んで暮していると言った。

人々は自分の人生でドラマチックな方向転換や、すごい成功と失敗を経験するとき、これを運命のせいにする習慣があります。「運命がそうなら、どうしようもないでしょう」「その女が運勢が強いからだ」などといったことばは、多くの人々の人生観に深く根づいた表現でもあります。運勢や運命論は、1,000年が過ぎる年月の間、個人と経済、政治、文化すべての分野で影響力を及ぼす裏面文化 (behind culture) の重要な軸になってきていると命理学の学者たちは言っています。

四柱推命の由来 その人の生まれた年・月・日・時を干支に換算して運命を予測する方法である四柱推命は、日本では「運命を推理する」ということで推命学、韓国では「運命の理を計算する学問」とい

う意味で命理学と呼び、中国では「運命を計算してみる」という意味の算命学 という表現を使います(チョ・ヨンホンの『運勢命理学の話』)このような、四柱推命は、900年ごろ、中国の道教の研究者だった徐子平という人によってその理論体系が定立され、韓国には高麗の終わりころに王室を含めた一部階層で四柱を通じて運命を予測して、婚事を決めるときには相性を見て吉日を取るなどの風習が流行したのです。1485年に完成された朝鮮王朝の法典『経国大典』を見れば、過去の試験の中で四柱推命に長けた者を官僚に採用する命課学があるほどでした。今日も、政・財界を含めて、若者にまで大きな影響を与えています。韓国のインターネット有料サイトの中で一番活発に運営されるサイトが二つで、一つはポルノサイトで、もう一つは四柱推命占いサイトだと言われています。

人はだれも生まれながら年・月・日・時の4つの柱に運命があるとして、それを十二支の動物と連結して解釈するのですが、四柱が同じならば運命も同じではなければならないと主張します。年は60甲子、月は12月、日は60日辰、時は12時間に分けるのですが、その場合 $60 \times 12 \times 60 \times 12 = 51$ 万 4,800 種に分けられます。それなら、現在、地球上に存在する人口を65億名だと計算したら、おおよそ1万2,538人の四柱が同じだという計算が出ます。韓国だけでも、年・月・日・時が同じ人が一日平均138名ずついることとなります。命理学の解釈とおりなら、この人々はみんな型にはめられたように、まったく同じ人生を味わわなければなりません。はたして、この数値どおり、人々の運命と運勢が同じなのでしょうか。まったく、そうではありません。人の未来と現在を動物のかたちで解釈すること自体が誤った解釈です。

人間の運命の開始と終り それなら、人間の運命と運勢は、一体いつ、どこから始まったのでしょうか。神様のみことばである聖書は、人間がいつから運命と運勢にはまってしまうようになったのか、運命をもたらした張本人がだれなのかを、確かに知らせてくれています。神様が世を創造されたとき、魚は水の中で、鳥は空中で、木は地の中に根をおろして生きるように創造されました。そして、人間は神様のかたちとして、神様と一緒にいる霊的な存在

として創造されました。犬が人生に疲れて苦しいと家出して迷うことは絶対にありません。ただお腹さえいっぱいになるなら満足します。ところが、人間はお腹がいっぱいになるだけでは幸せではない霊的な存在です。

最初の人間であるアダムとエバがサタンのうそにだまされて神様を離れたのち、すべての人間はサタンの手につかまるようになりました。その時から、サタンがもたらす運命と運勢に捕らわれた人間は、自分の意志と関係なく、呪いと災いに陥るようになり、親がいない子どものように、不幸な生活を送るようになりました。不幸の根源であるサタンは、今日も悪霊を使って人間が世の中の風習(運命、運勢、迷信、お祓い、占い、相性、おみくじ)に従って、偶像崇拜、精神問題、肉体の問題、家庭と子どもの問題、来世問題に苦しむ人生を生きて行くようにさせています。

はたして運命、運勢から出て来る道はないのでしょうか。神様は人間が解決することができない問題を解決して下さるために「キリスト」を約束してくださいました。キリストはこの世に来られて、十字架で死んで復活することによって、神様を離れたすべての人間が神様に会うことができる道を開いてくださいました(ヨハネの福音書 14:6)。キリストは、十字架で私たちの罪の代わりをして死ぬことによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放してくださいました(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。キリストは死から復活され、今も人間を苦しめて地獄に連れて行くサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼしてくださいました(ヨハネの手紙第一 3:8)。キリストは、人間の運命と運勢の問題を完全に解決されました。その「キリスト(Christ)」がまさに「イエス(Jesus)」です。今、キリストであるイエス様を信じて、心に受け入れることで神様の子どもになって、すべての運命と運勢から解放されることができます。

あなたは大事な人です。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。
わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を
信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに
会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

(ヨハネの福音 5:24)



聖書が語っているまことのいやし

最近、世界保健機構(WHO)が発表したことによると、韓国人の期待寿命は80歳だと明らかにされました。しかし、病気ではなく相対的に自由に暮らすという概念の健康寿命は71歳で、期待寿命と9年の格差がありました。息が止まる年は80歳でも、10年近く病気と戦いながら苦しく送るようになるということです。

真の健康は、どのようにすれば味わうことができるのでしょうか。聖書は真のいやしの約束をしています。イエス様もこの世に来られて病人をいやしながら福音を伝えられました。使徒と初代教会の信徒も、いやしと福音を伝えることを並行して行いました。マタイ8章17節に「彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った」と約束されています。イザヤ53章5節には「彼の打ち傷によって、私たちはいやされた」と約束されました。使徒ヨハネは、愛するガイオに「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります」(Ⅲヨハネ1:2)と手紙を書きました。神様はイエス・キリストを通じてまことのいやしを約束してくださいました。それで、神様のみことばを信じるだけでいやされることができます。

それでは、まず先に、いったい**病気の原因**は何なのでしょう。過労や失敗、伝染病、または老化の病気もあります。しかし、聖書が明らかにする三つの種類の原因はまことに重要で、人間の方法ではいやすことができない病気です。第一に、罪による病気です。偶像崇拜をした家には、家系に流れる不治病や厄運だと呼ばれる持病があります(出エジプト20:4~5)。現代医学では、まだこのような病気の原因を極めることができません。第二に、悪魔の与える病気があります。目に見えないように精神と心、環境と神経を伝わって入って来て人間を苦しめます。第三に、神様のみこころがある病気もあります。神様は使徒パウロが高ぶらないようにと、一生の間、彼の病気を直してくださいませんでした。

正しいいやしには正しい手順があります。無条件に医術と薬に頼り切るとか、肉体的な結果にだけ縛られてはいけません。まず先に霊的ないやしがなければなりません。人間の苦しみの開始が神様を離れた創世記3章の事件で始まったから、イエス・キリストを信じて神様の子どもになることが優先です。そして、聖霊に満たされる力で罪を断って、環境の中でイエス様を主人として告白すれば良いのです。この時から、物理治療も始め(ヤコブ5:13~15)、治療を受けた以後にも常に信仰を告白しながら感謝して、38年間、病気であった人のように、イエス・キリストをあかしする生活が必要です。まことのいやし、完全ないやしは神様が私と永遠にともにおられることです。

「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」(Ⅲヨハネ1:2)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。
しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださいましたキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。
今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。
私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。
どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。
そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト_シン・ジョンウン

どのように 疎通していますか

年寄りたちが幼い時代を言う、その昔も詳しくよく見れば、そんなに遠い過去の時間ではない。存在するその方が暮してきた日の一頂点だから、私たちもはっきりしないが、それでもその時間をじっと見ることはできる。ところで、その時は本当に人に会う方法が手紙か、そうでなければ顔と顔を合わせる方法しかなかった時代だ。それも、会う時間と方法が太陽が真上にある時、村の入り口の外にある丘で会おうなどという不特定な時間に、漠然とした場所を決めておいて会ったのだが、それでも彼らの生活に何の不便もなかった理由は、それが普遍的な文化として存在していたからだ。

このごろは秒を争う時間と、ナビゲーションが指してくれる正確な場所を持っているのに、出会いと疎通の問題が多くある。とうとう、出会いの場所へ行かなくても携帯電話と画像通話で相手をはっきりと見ることができるようになった。なおかつ、インターネットが発達してブログを通じて自分の考えと資料を伝える多様な方法で発展が繰り返され、一度にたくさんの人と疎通が可能なツイッターがあって、全世界の人がリアルタイムに自分の意見と違う人の考えを分かち合うことができるようになった。これに加えて、Facebook が用意されていて、すぐに写真と文章が意思疎通の重要な方法で浮び上がっているなど、このように文明は素早く発展している。それなら、私たちもこのように速い速度で相手を理解しながら生活を味わっているのかと言うと、事実は正反対の状況になっている。良い機械を持って相手の欠点を見つける道具に使うとか、淫乱の方式に盗用したりする。

そのような中、疎通を忘れてしまった私たちの生活は、どこか詰まった所が解けない息苦しさを持っ

たまま時間を過ごす。南と北が身近にあるが、疎通がなされなければ、結局、文明があったと言っても、良い道具が人間を疎通させてくれるのではないことが分かるようになる。

神的疎通を感じるということが難しい事のように見えても、実際にはすべての人が宗教の方法でその道を探す。それで、話にもならない論理を持った占いとシャーマニズムが盛んになっているところだ。契約の神様が人間と疎通すること願われて、イエスをキリストとしてこの世に送り、疎通の門を開いたと聖書で道を見せてくださった。虚しい恐れ、すなわち人々が自分の経験で作っておいた栄養価のない宗教の情報を捨てて、率直に語っておられる神様の御声を聞くことができたなら、まことの疎通は成り立つ。すべての宗教に祈りがあることは、それが宗教的疎通の原理だからだ。しかし、正確な事実を本当分かることを願うなら、すべての宗教の祈りは霊的実体、すなわち、暗やみの存在との疎通を成す。だから、その暗やみとの疎通の結果は、虚像を実体化させた宗教人の恐ろしさと、自分の家庭に音もなく臨む呪いと災いの中の苦痛なのだ。他人に話せない自分の事情があるが、結局、まことの疎通を夢見る者は、死んだ神さまではなく、生きておられ私たちの生活を導いてくださる神様との事実的な出会いがあるとき、人間はまことの疎通をするようになる。神様との疎通が正しくなると、そのとき、はじめて社会的な疎通も円滑になるのだ。

チョン・ヒョングク 牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ